

筑後川の水状況について

筑後川水系渇水調整連絡会
事務局

令和6年2月

これまでの渇水調整について①

- 令和5年12月19日の筑後川水系渇水調整連絡会で第1次渇水調整事項を合意。
- 渇水調整の取り組みによって、水源は約600万m³分の延命効果があったと推定。

R5/12/19 <第1次渇水調整>

1. 福岡県及び佐賀県は、水道事業者等に対し自主節水及び更なる域内水源の活用について促す。
2. 福岡地区水道企業団、福岡県南広域水道企業団及び佐賀東部水道企業団は、江川ダム、寺内ダム、筑後大堰、合所ダム、大山ダム、小石原川ダムの貯留水を統合し、使用する。
3. 関係機関は、筑後川に係る水の利用者に対して、節水についての啓発活動を行う。



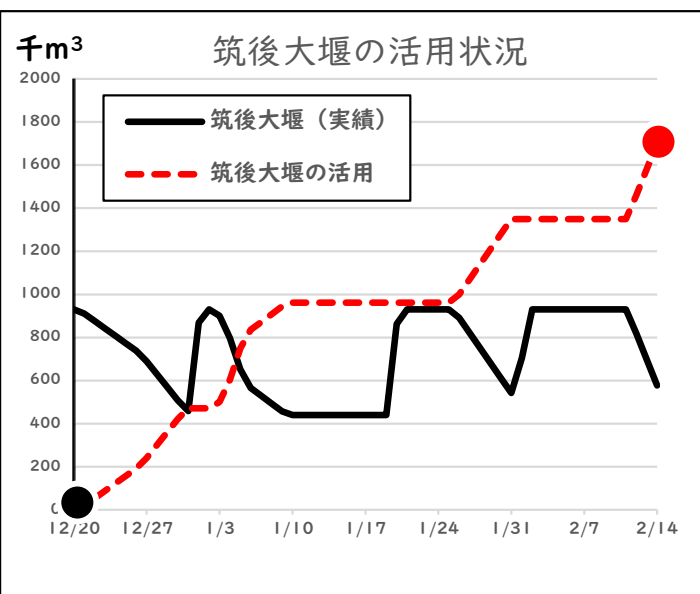
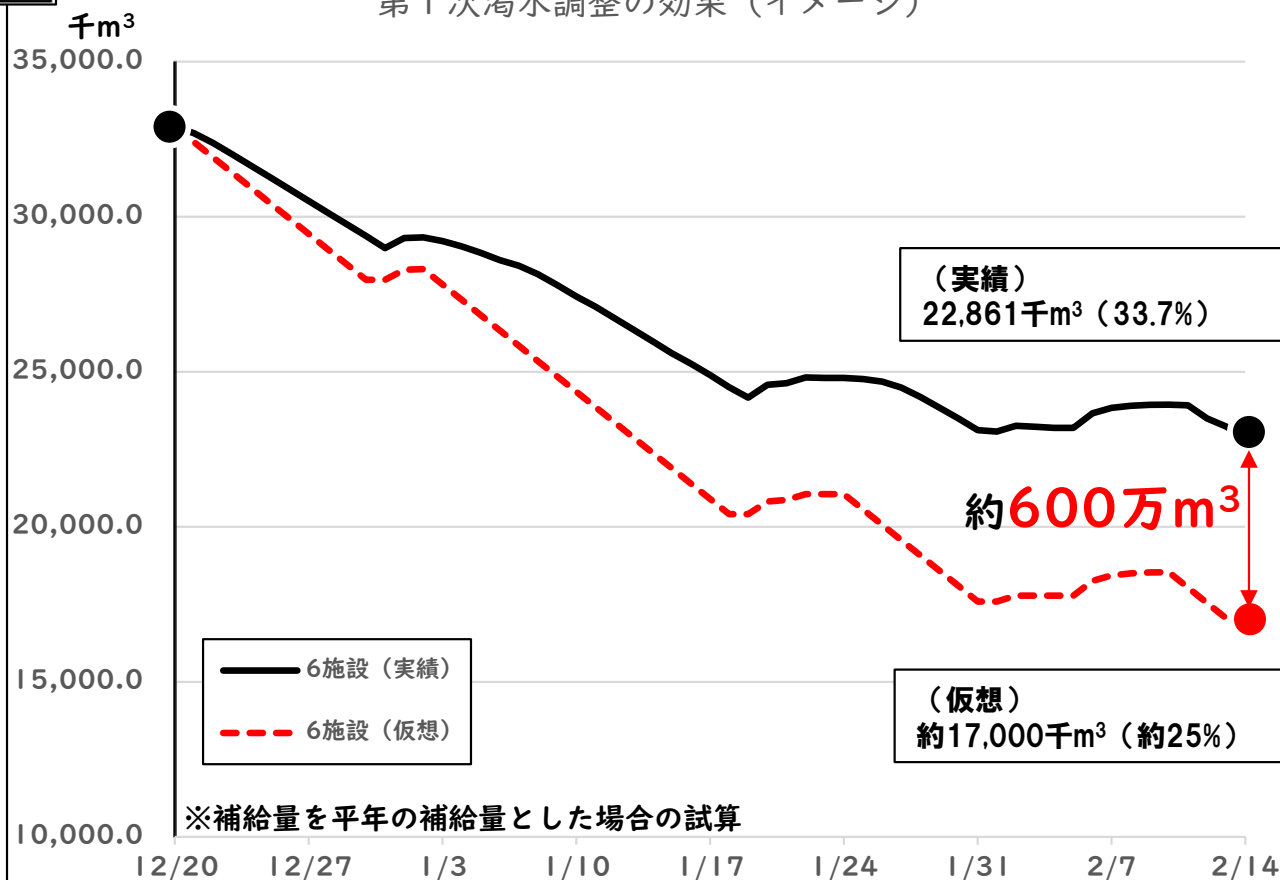
出典：福岡地区水道企業団HPより

福岡地区水道企業団は
海水淡水化施設（まみずピア）を
フル稼働

1万m³/日 ⇒ **5万m³/日**

※10月下旬から段階的に増量。
12月12日からフル稼働。
ただし、設備の点検時などを除く

第1次渇水調整の効果（イメージ）



筑後大堰の活用は、
約170万m³

※R5/12/20~R6/2/14

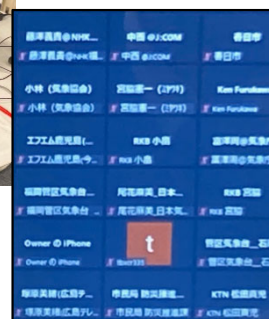
これまでの渇水調整について②

<整備局での啓発活動の例>

取組内容	実施時期
①渇水対策本部の設置	R5.12.19設置
②HPを活用した啓発	R5.12.19~
③SNS等を利用した啓発	R6.1.16~ X(旧Twitter)、インスタ
④気象予報士・報道機関へ協力要請	R6.1.19 R6.1.21

取組④: 報道機関・気象予報士へ協力要請

▼Zoomを用いての状況説明



事務連絡
令和6年1月17日

報道機関 各位
気象予報士 様

筑後川水系渇水調整連絡会事務局
(国土交通省九州地方整備局 河川環境課長)
原田

拝啓! 寒冷の候 益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
日頃より、河川防災情報の発信などご理解ご協力頂き、心よりお礼申し上げます。

さて、令和5年8月から筑後川流域では記録的な少雨傾向となっており、これに伴い筑後川流域のダムの貯水量も減少しつづけております。
この状況を踏まえ、国や県といった関係機関では、断水など市民生活・社会経済活動へ著しい影響が生じないよう、様々な調整など取り組んでいるところであります。

渇水の対応については、我々行政機関だけではなく、市民の皆さんにもご協力いただき一丸となって取り組むことが、今後の渇水影響の深刻度を左右することから、「節水の呼びかけ」を関係行政機関にてウェブページやSNSを活用し実施しています。

この度は、更に効果的な節水意識の広報を目的として、報道機関や気象予報士の皆様のご協力をお願いしたくご案内となります。
(例) ニュース天気予報等で「筑後川では少雨・節水に心がけて」を触れてもらう など

▲文書による協力の要請

取組①: 渇水対策本部の設置



▲R5.12.19 本部看板設置

取組②:HPを活用した啓発

※HPに『渇水情報』のページを開設。
これまでの会議資料など渇水情報を集約のほか節水を呼びかけ中。
また、HPのトップ画面にも『渇水情報』のバナーを新設。



筑後川流域では、本年8月から少雨傾向が続き、特に9月から11月の3ヶ月間の降水量は、江川ダムが管理開始された昭和50年(1975年)以降で最少を記録し、ダムからの補給が継続している状況となり、ダムの貯水率も減少の一途をたどっています。
このような状況を受けて、今後の総合的な水運用のための渇水調整を行うため、12月19日に筑後川水系渇水調整連絡会の開催しました。

節水へのご協力をよろしく申し上げます。

▲『渇水情報』のページを開設



▲トップ画面に『渇水情報』のバナーを新設

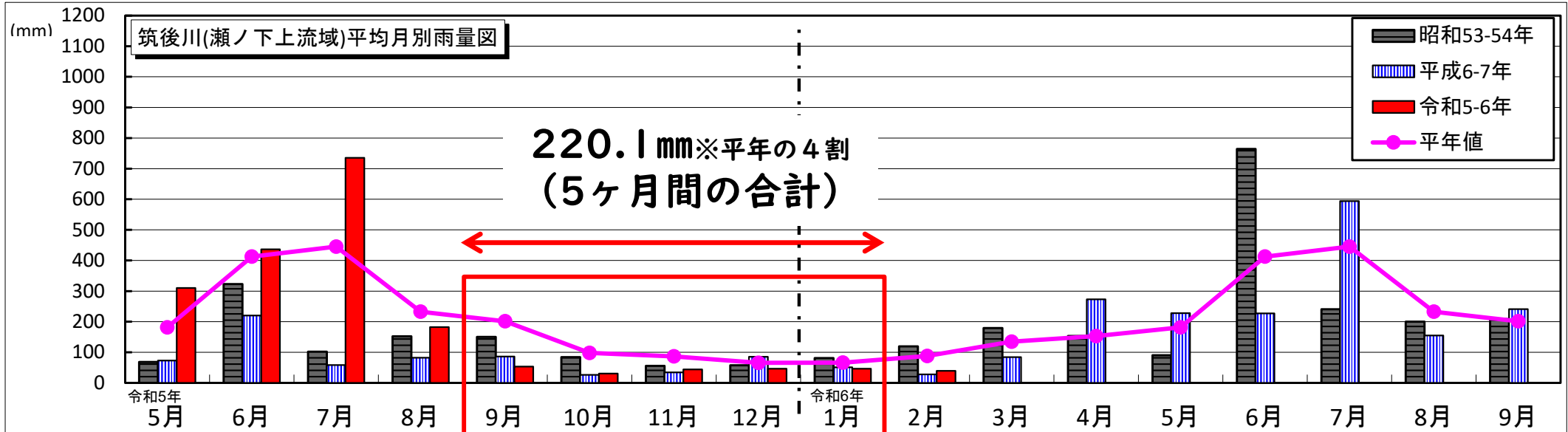
取組③: SNS等を利用した啓発



▲R6.1.19 “X”を用いた投稿

令和5年-6年の筑後川流域の降水量

- 筑後川の流域平均雨量は、令和5年9月は53.3mmと平年の約27%。
- 令和5年8月から6ヶ月連続で平年値を下回り、令和5年9月から令和6年1月までの合計雨量は平年の4割にとどまった。



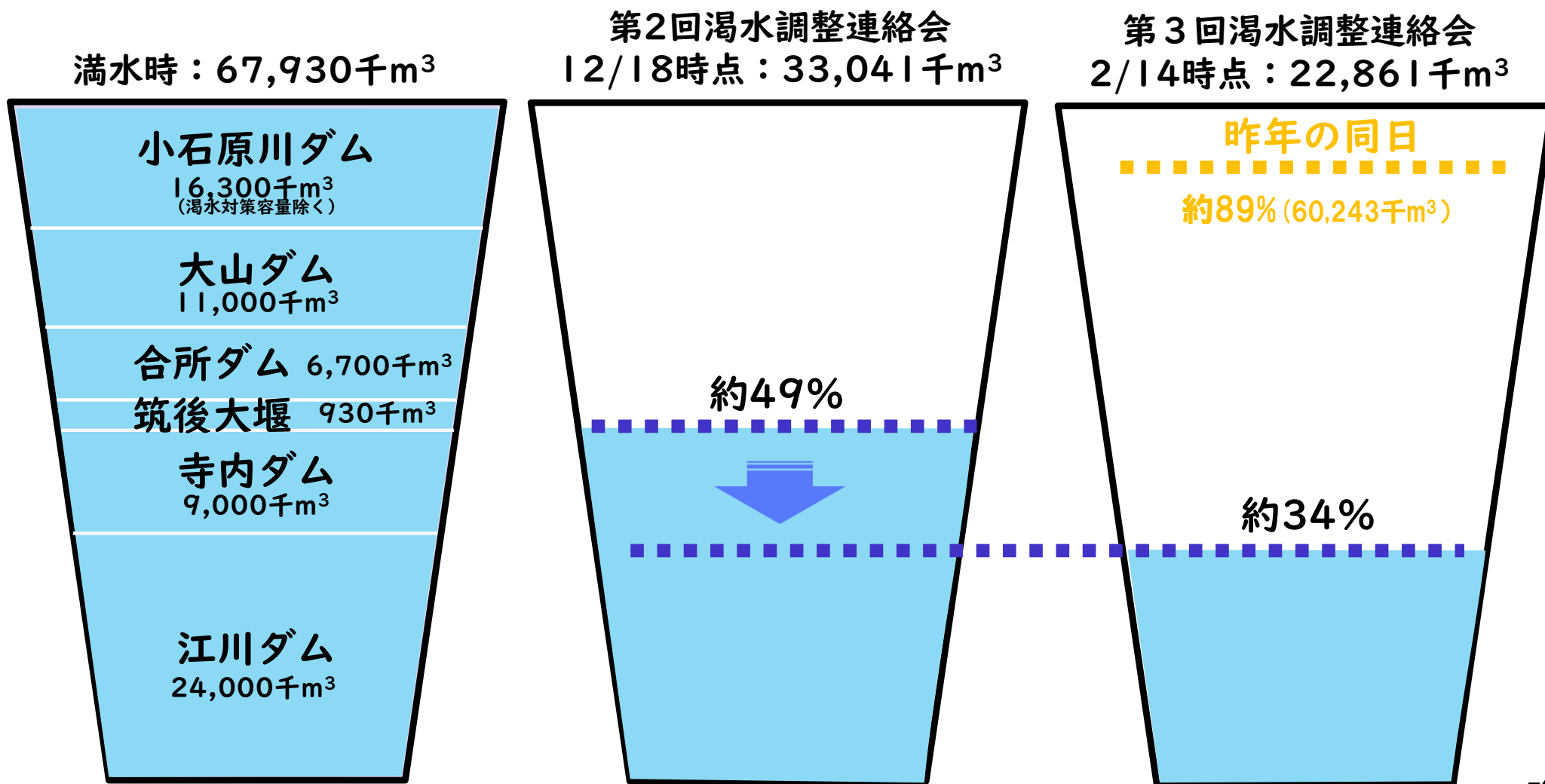
月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平年値	181.5	412.5	445.1	232.6	201.3	98.0	86.6	65.4	66.2	87.9	134.7	152.9	181.5	412.5	445.1	232.6	201.3
昭和52-53年	291.4	515.2	158.3	122.9	92.2	60.5	104.0	63.4	68.0	76.9	78.9	115.1	68.2	323.2	102.0	152.3	150.1
(平年比)	160.6%	124.9%	35.6%	52.8%	45.8%	61.7%	120.1%	96.9%	102.8%	87.5%	58.6%	75.3%	37.6%	78.4%	22.9%	65.5%	74.6%
昭和53-54年	68.2	323.2	102.0	152.3	150.1	84.0	55.6	57.4	81.0	119.2	179.1	153.5	90.3	764.3	240.6	200.2	208.5
(平年比)	37.6%	78.4%	22.9%	65.5%	74.6%	85.7%	64.2%	87.7%	122.4%	135.6%	132.9%	100.4%	49.8%	185.3%	54.1%	86.1%	103.6%
平成5-6年	137.8	816.6	587.8	458.7	351.4	79.1	119.6	68.8	56.6	75.4	68.5	188.7	72.8	220.3	58.3	82.1	86.2
(平年比)	75.9%	198.0%	132.1%	197.2%	174.5%	80.7%	138.1%	105.1%	85.6%	85.8%	50.8%	123.4%	40.1%	53.4%	13.1%	35.3%	42.8%
平成6-7年	72.8	220.3	58.3	82.1	86.2	26.3	34.3	85.5	50.9	27.8	84.3	273.3	228.0	227.3	594.1	155.0	241.1
(平年比)	40.1%	53.4%	13.1%	35.3%	42.8%	26.8%	39.6%	130.6%	76.9%	31.6%	62.6%	178.8%	125.6%	55.1%	133.5%	66.6%	119.8%
平成14-15年	319.0	182.8	254.4	128.0	89.6	81.9	69.5	104.8	62.1	80.6	136.7	236.4	180.0	324.5	570.5	411.1	69.6
(平年比)	175.8%	44.3%	57.2%	55.0%	44.5%	83.5%	80.2%	160.1%	93.9%	91.7%	101.5%	154.6%	99.2%	78.7%	128.2%	176.7%	34.6%
平成22-23年	242.0	347.4	509.3	125.8	158.8	80.6	33.2	114.9	34.5	64.3	67.7	76.0	324.2	695.3	302.4	309.9	186.8
(平年比)	133.4%	84.2%	114.4%	54.1%	78.9%	82.2%	38.3%	175.6%	52.2%	73.1%	50.2%	49.7%	178.7%	168.6%	67.9%	133.2%	92.8%
平成30-令和1年	197.1	368.4	528.1	65.2	327.3	65.6	46.1	74.7	47.6	114.2	129.2	104.7	51.5	182.8	469.5	523.7	129.1
(平年比)	108.6%	89.3%	118.6%	28.0%	162.6%	66.9%	53.2%	114.1%	72.0%	129.9%	95.9%	68.5%	28.4%	44.3%	105.5%	225.1%	64.1%
令和5-6年	310.3	436.4	735.3	182.3	53.3	30.6	43.8	46.3	46.1	39.5							
(平年比)	171.0%	105.8%	165.2%	78.4%	26.5%	31.2%	50.6%	70.7%	69.7%	44.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※平年値は、1991~2020年(30年間)の平均値。令和6年2月14日0時時点

筑後川の水源の状況①

- ダムの完成や渇水調整などにより、平成6年渇水以降は断水など市民生活・社会経済活動への影響は回避。
- 現在の筑後川主要6施設の合計貯水量は、これまでの少雨により満水時に対し3割程度まで落ち込み、その水量はダム1個分※1まで減少。
- 流域の水源状況からも、警戒感が高まってきている。

※1:ダム1個分とは、江川ダム(24,000千m³)の利水容量の合計を指す



筑後川の水源の状況②

- 筑後川の主要6施設の合計貯水量（渇水対策容量を除く）は、まとまった雨が無ければ、約2ヶ月後に枯渇する恐れ。
- 危機的状況を回避するためには、更なる渇水対策が必要な状況。

6施設（江川・寺内・小石原川・大堰・合所・大山）貯水量経年変化図

